

東京歌会（第七十三回）

平成三十年十一月十五日（木）、会場・文京シビックセンター三階A会議室。詠草は各二首八首。出席者四名（市川茂子、小野澤繁雄、林博子、松井淑子）。

庭先の櫛に赤き実あまた付きこの現象にはじめて気づく

市川茂子

こういうことはある。ここで櫛は二首目の歌から白櫛か。関東で櫛という和白櫛を云うようだ。材が白色である。忙しくしていたのか何か、実は毎年付いていただろうに。（実が付くという）この現象に、という括りかたにはやや賛否があった。

九十歳きゅうじふの母に言ひ置くあれこれは殆どわれの安心のため

布宮慈子

表現上の問題はない。三句から結句まで、を含めてことばの流れがいい。今の、高齢の親との関係で、結論にとどいているようなやりとりなのだ。ここでは同居していない関係。好評。

金物を収いれる金物金物店ワイヤーがみゆ鳥籠がある

小野澤繁雄

金物店の描写が上句。ここがわかりにくいという。単独の金物店は荒物屋とむかしいつていたような。今は、ホームセンターで扱っている。下句より上句を議論することになった。種苗店でもそうだが、単独の店が少なくなったことが話題になった。町の規模もある。

クオ・ヴァデイス死したるのちの軀くはかろし羊雲ほぐれ流れ行くなり

林博子

クオ・ヴァデイスは、ラテン語でどこへいくのか？ の意。出典は、新約聖書「ヨハネによる福音書」。また、タイトルとする歴史小説、同じくその映画化もある。ある緊張した場面が想定される。昇天の暗示、その場からの（緊張の）ほぐれ、も空にかかわっている。羊雲、読みはよううん、と。

東京歌会（第七十四回）

十二月二十日（木）、会場・文京シビックセンター四階シルバーセンター和室二。詠草は各二首十首。出席者五名（市川茂子、小野澤繁雄、林博子、丸山弘子、松井淑子）。

かつての日君が庭よりもらい来しオキザリスとういまだ咲きつぐ

市川茂子

いまだ咲きつぐ、から、オキザリスが花だということがわかる。オキザリスはあまり知られていないが、カタバミの仲間、秋から冬に咲くタイプがある。名前はいろいろだが、名にも興味がある。オキザリスとう、には紹介する手つきがあり、今改めてみるようなところがある。

音曳きてドップラー効果の救急車行き過ぎ老いの崩れをおもう

林 博子

救急車の音が追い抜かれる前は高く、抜かれた後は低く聞こえることで実感されるというドップラー効果。ここでは、後者を音の崩れと聞いている。そこを老いの崩れに重ねて、自身の老いにひきつけてもいる。新しい把握。

夏越しをさせしシクラメン生きてゐて幼き葉つば次々出だす

布宮慈子

シクラメンは、夏越しをさせにくいものという。観ている人のおもいが伝わってくるようだ。葉っぱ、という幼児語のようないい方にもそれは出ていて、まだ葉の段階でもある。いっしょの歌にも、（日ごとに伸びる）葉を飽かず見る、がある。

としどしの定まりと届くシクラメンの大きな花鉢母亡きのちも

丸山弘子

定（き）まり、と読む。大きな花鉢、と丁寧。お母さんが存命のときもどいていた。お母さんが好きな？花。やや淡々と云っているが、感慨がないということもないのだ。

挨拶ができる通りのあることよ若き人より挨拶がきつ

小野澤繁雄

国道や県道といったみちでなく、そのへんの、近所の通り。そこでは挨拶をする。返ってくる言葉がある。若い人から先に挨拶を受けたのだ。こちらは老いを意識している。

東京歌会（第七十五回）

平成三十一年一月十七日（木）、会場・文京シビックセンター四階シルバーセンター和室二。詠草は各二首十首。出席者五名（市川茂子、小野澤繁雄、林博子、丸山弘子、松井淑子）。

明け方の夢と現の一瞬を戸惑いながら起きあがりたり

市川茂子

歌にしづらいとところか。よくわかるし、上手い一首。少しの経過でちゃんと目覚めるものだ。戸惑いながら、で夢と現の、間を繋げている。

水仙もフリージアもそれぞれの香に立つる清かに額に触れし風花

林博子

読みは、清（さや）かに。額（ぬか）に。三句切れ。水仙もフリージアも実景だが、風花、はそうではないようだ。気配。戸外。じつのところ、花屋さんの店頭だという。花の少ない季節でもある。

雨催ひの今朝もひよどり二羽で来て銀杏の高きに並び鳴きゐる

丸山弘子

雨催（あめもよ）ひ。催す、には、何かの状態になろうとするきざしが見える、の意がある（『新明解国語辞典』第五版）。雪催い、もある。ひよどり二羽で来て、には余計なものがない。庭とは云っていないが、一首目の、物置も庭にある。銀杏は葉を落としているから、並び、と鶉が見えている。ひよどり、のひらがなは確かめた感じ。

九十三というシルバーカーのその女性ひとにきくち体操のことも聞きたり

小野澤繁雄

九十三（歳）。シルバーカーは老人用手押し車で、荷物を運ぶほか椅子にもなる。きくち体操、はテレビでやっているらしい。質問したこととなく、話の中で出てきたという。テレビをみている老人は多い。菊池さんは、その体操の発案者。

音楽と明るき絵はあり雪の日に歯科クリニックの椅子に座れば

布宮慈子

椅子に座っても、すぐ診察とはならない。音楽と明るき絵は、そこで改めて耳にし、目にすることになるが、この場合セットのようなものか。歯科（の待合室）でさいきんはそう待たないが、診察室では、いろいろ座っている時間がある。雪の日に、はそう難儀には思っていないような調子がある。二首目の、おとなしく座つてゐても、の、おとなしくは漢字では大人しく。

（報告・小野澤繁雄）